

私が23歳の昭和49年の冬でした。夜中に突然尿道に非常に強い痛みを感じて目を覚ましました。どうして痛むのかも分からず、痛みが消えることを願い耐えていました。

耐えていると次第に痛みが無くなって再び眠っていました。その症状が次の日も現れました。よく観察してみると勃起したことで痛みが現れる事に気がついて、早く勃起の状態を無くして痛みから解放されたい気持ちでした。そんな状態が一週間後に無くなりました。これでつらい痛みで夜に起こされることが無くなりました。

しかし、その代償に、とてもおしっこが細くなってしまい、いきまないとおしっこがしづらくなりました。病院に行って原因を聞くと一年前のオートバイでの事故で骨盤骨折したことが関係しているかもしれないと、言われました。

すぐに、痛みと出血の「ブジー」という金属の棒状の器具で治療を行ったが、尿道が細くて「ブジー」が入ってくれなくて手術をして管を尿道に入れた治療を受けてから、1年くらいは、何とかいきむことが無いようにおしっこをすることが出来ていました。

しかし、また何日か夜中に尿道が痛むようになり、痛みが無くなったころは、再びおしっこをしづらくなっていました。病院では、「ブジー」が入らないので、レントゲンを見ながら誘導する細いワイヤーを入れてそれからだんだんと太くして、「ブジー」を入れる治療を受けました。それから、10年くらいはおしっこが細いことを我慢してこれ以上我慢すると「ブジー」が入らなくなると思われるころに「ブジー」の治療を受けました。先生からこの治療を一生続けなければならないことを言われました。だから、当時は半年に一度の治療をしてくれる先生がこの病院から居なくなることを願っていました。

しかし、発症して15年ころに総合病院でしたので先生が新しくなっていました。

そして、その先生が手術をして いきまなくてもおしっこが出来るようにしてくれろと言ってくださいました。私も承諾して 管から刃先が出てくる器具を使って尿道の狭い所を拡張する手術を受けました。手術を終えてカテーテルを取った時は今までに忘れていた 何もストレスを感じない放尿をすることが出来た時の感激を今でも覚えています。すぐに先生に感謝の気持ちを伝えました。しかし、これは完治したわけでない、また再発することをその時に聞かされました。それを嘘であってほしいと思っていましたが、だんだんと次第におしっこが細くなっていき、また、痛みと出血の「ブジー」とい

う金属の棒状の器具で治療を受ける事になりました。今度は3ヶ月に一度のペースでないと「ブジー」が入らなくなると思われました。

また、再発することを認識した上で尿道に風船を入れる（バルーン手術）拡張術を何回かしましたが、ただ つらい思いをしただけで、すぐにおしっこが細くなって「ブジー」での治療を受けていました。そんな手術を繰り返すとだんだんにつらい「ブジー」での治療の間隔が早くなってきて発症して20年ころの40歳の始めころには一ヶ月に一回の治療が必要になっていました。それまでの間に仕事でちょっと無理をしていると突然高熱が出る、腎盂腎炎を発症し入院も何回かしました。また、おしっこが出なくなって救急で治療を受けたときもありました。そして、毎月の「ブジー」での処置後の3~4日間は排尿時の出血と強い痛みが常にありそのたびにどうしようもない悲哀感に落ち込んでいました。

それから、生活の上では何も根拠が無く気のせいと取られますが、お風呂で湯船に入って体を温める事と、滋養に良いとされるドリンク剤を飲むとおしっこが細くなりやすく感じたので極力控えるような生活をしていました。また、新しく生命保険に加入することもできなくて将来に不安を感じていました。

治療で、尿道も傷つけられてきたので 尿道の奥の方が狭かったのですが先の方も狭くなって、狭いところが2カ所になってしまいました。

おかげで、「ブジー」での治療の時に先の方が入っても奥の方が入りづらかったり奥が良くて先が入りづらかったりして、そして、少し無理をして入れると大量に出血して具合が悪くなることも何回かありました。

ですから月に一度の「ブジー」での治療の時はスムーズに「ブジー」が入るように何かにお祈りする気持ちでした。治療する先生も何かにお祈りしたい気持ちが私にも伝わってきました。

その頃の毎日は、仕事で忙しく過ごしていましたが、月一の治療での休むタイミングを考えながら同僚に引け目を感じながら仕事を進めていました。何回かパソコンで「尿道狭窄」と病名で検索して新しい治療方法を期待しても、同じような境遇の人の話があるだけでした。 そんな毎日で 楽しみを感じられる事が無く つらい毎日にふと時折こみ上げて来る時もありました。

そして、次第に尿道が狭く硬くなって、70歳を超えてもいつまでも「ブジー」での治療が出来るとは思っていませんでした。それより早く新しい治療方法が出来ることをあきらめの中で少し願っていました。

そして、平成24年の初夏にいつものように「ブジー」での治療を受けたのですが「ブジー」が入らないのです。私のために買ってもらった一番細い8フレンチの「ブジー」も入らなくて無理をしてまた大量に出血するのいやだったのでその日の治療を中止しました。

それでも、だんだんとおしっこが細くなっていくのです。その時私は、70歳まで「ブジー」での治療を続けることが出来るか不安だった事が50歳を超えた今にもう限界が来るとはとても不安で憂うつな毎日でした。それでも、仕事を休んで新しい治療方法に期待して別の病院に行ったりしたが話を聞くだけで何もしてくれませんでした。

そして、また、総合病院に行って内視鏡を使っての拡張の治療をして「ブジー」の治療を受けました。そして、また一週間後に来院ということで行ったところまたバルーンの手術をしないとこれから毎回大変な思いをしますと言われましたが、もうバルーンの手術や「ブジー」での治療に先を感じる事が出来なくて途方に暮れていました。

そんな時に最近検索していなかったが、何となく「尿道狭窄」とパソコンで検索したところなにやら尿道狭窄を患っている方が「北海道の先端でも沖縄の先でもどこでも行きますから尿道狭窄症を治してくれる先生が居るところを教えてください」と懇願しているサイトを見つけたのです。それはまさしく当時の私の気持ちと一緒にでした。

そして、検索を繰り返して「堀口先生のホームページ」にたどり着くことが出来ました。その先生のサイトを読んでいると、涙がぼろぼろと出てきて「これで長年のつらい思いにお別れすることができる」と感激しました。

そして、主治医の病院が休診の日でしたが、先生に会いに行き防衛大学校病院に紹介状をファクスしていただけるようお願いしました。そしたら、先生も休みにかわらずお願いを聞いてくれました。

おかげで、堀口先生の診察を受けることができました。

私の場合尿道の奥の方と先の方の2カ所が狭くなっているということで、まずは一番強く狭窄している奥の方で狭くなっている所を取って尿道の端と端を縫い合わせ

る“尿道端々吻合”と言う手術と“口腔粘膜を利用する手術”の2回とで手術は3回必要で一年以上かかるとのことでした。

私は、何回手術をしてでも今の苦しみから解放されるのであれば いくらでも受け入れる覚悟はしていましたし、何でも乗り越えられると思いました。

最初の手術は11月の下旬に決めてもらいました。そのために尿道を休める必要があり、腹から膀胱に管を入れてその管からおしっこを出せるようにして、手術にそなえました。

そして、11月の1回目の手術を終えて3週間たった頃にお腹に入れてあるおしっこの管を抜いて 術後初めて尿道から尿を出した時は、今まではおしっこをする時は「これから出すぞ!」、と気合いを入れていきむのが当たり前だったが、そんな気合いを入れる前に何も狭窄感を感じる事が無くおしっこを出し終えてしまったのです。

こんな感覚は何十年も感じたことがありませんでした。そのために、とても感激してしまい、今 何が起きたのか理解することに少し時間がかかった事を 今でも覚えています。

そして、三ヶ月後に口の中の粘膜を利用して尿道の狭くなった所を切開して、粘膜を貼り付ける手術をしました。その半年後にその粘膜を筒状に形成し新しい尿道を形成しました。

発症して三十年近くつらい思いをしてきましたが、何はいきむことをしなくてもおしっこをすることができるようになりました。

普通の人があたり前にできることが、できるようになったのです。こんな嬉しいこととはありません。

本当に堀口先生やそのスタッフや地元の主治医の方や私に関わってくれた人たち皆さまに感謝しきれないほどの気持ちです。今でもおしっこするときは、ありがたさと感謝の気持ちになります。

病院の人たちが、私のために 最大の努力をしてくれている姿を目の前にして、感謝の気持ちで一杯になり 生きること喜びを感じました。又、みなさんの気持ちを裏

切ることが無く、自分もがんばらないといけないと 新たに自覚し未来に希望を持つことができました。

そして又、私のように苦しんでいる人が一人でも楽になれるように、堀口先生の技術が全国に広まってほしいと思いました。